

# 事業評価シート（平成26年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	保育所ふれあい交流推進事業		
事業担当	健康・こども部 保育課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'01	地域力 地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす	
	'03	3 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	入所児童、地域住民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 民間保育園】		
	目的・目標		事業の概要
地域ぐるみの交流を通して、児童のお年寄りへの「いたわり」や「思いやり」の心を育て、社会性を養うとともに、地域の子育てが支えられています。		保育所の持つ地域性を活用し、児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うため、世代間交流事業、異年齢児交流事業、自然体験活動等を実施します。	

## 2. 事業の検証

活動指標	指標名	実施保育所数			単位	園
	説明・算定式	延べ実施保育所数				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	37	40	40	10	
	実績	39	39	32		
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	交流事業数			単位	回
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	2500	2500	2500	1600	
	実績	2211	2156	2222		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	：若干遅れている					
	遅れている理由	事業数が減少したことにより、事業の実施園数が減ったため				
平成26年度の主な取組と成果						
子育て家庭交流、世代間交流等の各種交流事業を実施したことにより、児童の社会性を養うことができました。						
平成26年度の検証結果	B：おおむね成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うために必要性は高いと思われます。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	保育所が行う子育て家庭交流等は、入所児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うのに有効です。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	事業が適切に実施されることにより、入所児童の思いやりを持つ心や社会性が養なわれるとともに、生きる力が培われ、事業目的を達成するのに妥当です。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	事業内容等を検討し、更に効率性を高めていきます。	高中低
<b>今後に向けた課題の分析</b> 公立保育園での本事業の取り組みをさらに周知していく必要があります。				

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施	子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施	子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施	子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施
財源内訳	国庫支出金	450	0	0	0
	県支出金	346	307	352	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	1,903	2,394	1,054	0
事業費 (A)		2,699	2,701	1,406	0
執行率 (%)		74.97	75.03	47.66	

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

<b>平成28年度の取組方針</b> HP等で積極的に事業の周知やPRを行い、各種交流事業への参加者数の増加を図ります。
<b>課長コメント</b> 補助事業の部分のふれあい交流事業は平成26年度をもって廃止となりましたが、引き続き公立保育園での取り組みを進めていく考えです。